

山西小学校便り

温もり
信頼
笑顔

山西っ子

《なかよく・かしこく・たくましく》



天気に恵まれ、歴史と文化、平和の町、長崎で多くのことを学んだ修学旅行でした。

令和2年12月10日(木) no.36 文責：上田

平和について学ぶ 6年修学旅行

1949年、被爆地長崎を長陽中学校(現:南阿蘇中学校)の修学旅行生が訪れます。病床にあった永井隆博士から見舞いに持参した自然薯の返礼として、色紙とヘレン・ケラーから贈られたコスモスの種を受け取ります。その後、長陽村(現:南阿蘇村)の4小中学校では『平和のコスモス』として長年に亘りコスモスが咲き続けます。10月5日の『平和のコスモス古里に』と題した熊日新聞記事では、70年前に永井博士を見舞った今村さんから当時の話を聞き、南阿蘇西小の子どもたちが今年の修学旅行に、『平和のコスモス』の種を長崎に持参したことが紹介されていました。20数年前、長陽村の立野小に勤めていた私は、当時の6年生たちと修学旅行に、自然薯を掘って持参したことがあります。永井博士の息子さんの誠一(まこと)さんに、自然薯を渡すと、70年前のことを思い出され大変喜ばれました。



6年生が訪れた長崎は、現在、平和都市として多くの修学旅行生が訪れています。今回の修学旅行では、永井博士が暮らされた如己堂や原爆落下中心地などを訪ねるとともに、14才で被爆された早崎さんの講話をお聞きすることもできました。平和の尊さを山西小の6年生たちも感じてくれたことだと思います。

以前、永井誠一さんが「 $6+9=15$ 」というお話をされたことがあります。8月6日と9日があり8月15日の終戦を迎えたことを私たちは忘れてはならないと思います。

持久走大会 温かい声援が励みに

この数週間、子どもたちは体育の時間に持久走の練習を続けてきました。今年はインフルエンザの流行もなく、天気にも恵まれました。子どもたちはこれまでの練習の記録をもとに目標タイムを設定して本番を迎えたわけですが、沿道からのご家族の応援が励みとなったようで懸命の走りを見せてくれました。ご声援いただきありがとうございました。記録証を配付しますので、子どもの頑張りを家庭でもしっかり認めていただきますようお願いします。

